

TAはどのような意義があるのか？

I2TAプロジェクト

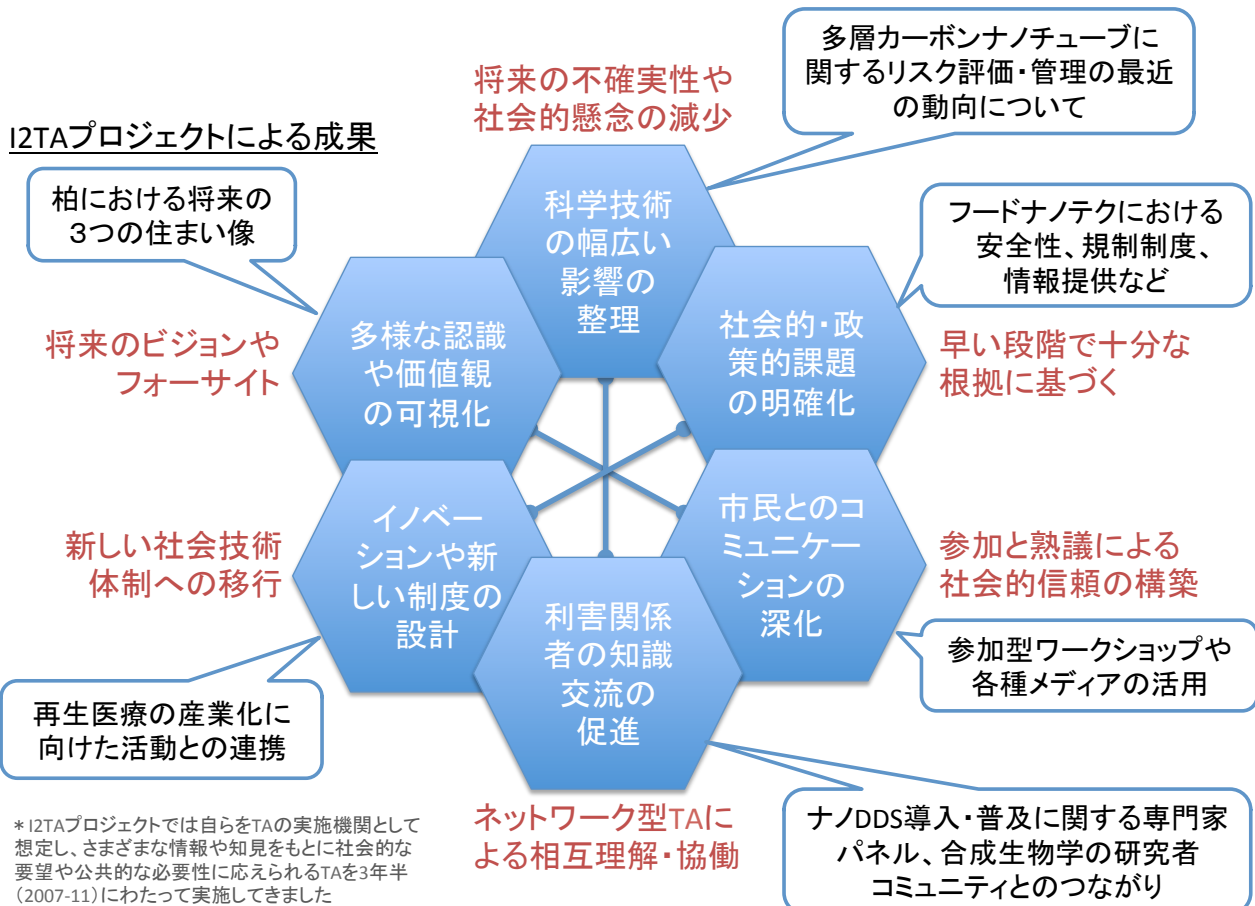
• テクノロジーアセスメント (TA) とは？

独立不偏な立場で科学技術の発展が社会に与える影響を広く洗い出して分析し、それを市民や政治家、行政に伝え、議論の喚起や意思決定の支援をすること

• どのように政治や行政、社会に貢献できるか？

1. 科学技術やその社会的影響についてこれまでに分かっていることと分かっていないことを整理する
2. 科学技術の発展によって生じる社会的・政策的課題を明確にする
3. 科学技術と社会に対する多様な認識や価値観を可視化する
4. 利害関係者それぞれの相互理解や協働、知識交流を促す
5. イノベーションや新しい制度設計を支援する
6. 幅広い市民とのコミュニケーションを深める

i2ta
Innovation and Institutionalization of
Technology Assessment in Japan



他の似たような活動とどこが違うのか？

- TAと呼ばれなくともやっているのでは？
 - 現在のTA的活動はその場限りの対処や実践であり、エネルギーや環境、医療、食糧など長期的な取り組みに対して**社会的責任が果たされない**
 - TAとして制度化されることで、国内外の活動連携や知的資源を安定的・継続的に確保することができ、**社会からの信頼を構築できる**
- 政府審議会や事業仕分けと違うのか？
 - 審議会や事業仕分けでは、縦割りの議論が多く、また主催者の意図により**結論が大きく左右されるおそれがある**
- 研究開発評価や政策評価のことではないか？
 - これらの「評価」の枠組みでは、科学技術の長期的・間接的な**社会的影響は考慮されにくい**
- 科学技術コミュニケーションとの関係は？
 - TAはコミュニケーションの促進だけにとどまらず、それを通じて**将来に向けた選択肢の提示や意思決定に役立てる情報**を提供する
- 科学的な活動をアセスメントできるのか？
 - TAは基礎科学がもたらす社会的影響なども対象にすることもあるが、**将来のイノベーションや産業化、社会問題につながる可能性のある技術**を積極的に扱う

TAは日本でどのように制度化できるか？-I2TAからの提案

- 国会
 - 過去の米国連邦議会技術評価局（OTA）のように、衆議院の**科学技術・イノベーション推進特別委員会**において課題の調査分析を担当する事務局の支援機能として
- 政府
 - 内閣府「**科学技術・イノベーション戦略本部（仮称）**」の下で独立性をもったTA活動を実施するユニットとして
- 日本学術会議
 - 政府への勧告権を持つ学術会議の事務局体制を強化し、**若手アカデミー委員会**などにおいて幅広く実務者が確保されるようにした上で、TA活動を行うユニットを設置
- 政府による資金枠の設定
 - TAの活動について、政府研究開発投資における一定の資金枠を充当させる政策を実施し、**多様な研究機関・大学・NPO等**が担い手となる
 - 科学技術・イノベーション**政策のための科学**や**科学技術コミュニケーション**の枠組みのほか、大規模研究開発プログラムの**社会還元部門**の一部として
- 研究開発機関
 - 研究開発独立行政法人を統合する「**国立研究開発機関（仮称）**」において、科学技術外交や科学コミュニケーション、研究開発戦略等を担う部門にTA活動を実装